

オーディオセッション in Osaka 2022 報告(2022.11.5)

1. はじめに

オーディオセッション in Osaka 2022は11月5日から6日まで、心齋橋ハートンホテルで開催されました。以下はオーディオセッション in Osaka 2022の報告です



2. デモの概要

出展各社の一覧表と出展各社のイベント内容は、[研究室日誌 11月6日](#)に記載のとおりです。出展各社のデモの概要は、出展各社のイベント内容に示されたとおりですが、これらの中から興味を引いたものを下記に記します。

1) 光城精工

クリーン電源、Crystal E、Crystal Ep シリーズの紹介とデモが行われるとのことでしたが、Crystal Ep のデモを試聴しました。

使用機器は次のとおりです。

ターンテーブル：BL-91 (MICRO)

CD プレイヤー：260D (SIMAUDIO)

アンプ：3401D3PX (SIMAUDIO)

スピーカー：Special Forty (DYNAUDIO)



Crystal E や Crystal Ep の開発の経緯や設計の考え方の説明を挟みつつ、デモは

パーカッションや女性ボーカルの CD を再生しながら、Crystal EpR をアンプの RCA 端子に、さらに Crystal EpB をスピーカーのバナナ入力端子に脱着させて音の変化を聴かせるものでした。

最初にアンプの RCA 端子に接続し、ついでスピーカーの入力バナナ端子への接続を加えることによって、パーカッションは音の立ち上がりや空間表現が向上し、女性ボーカルもボーカルのニュアンスの表現が深まりつつ、これも背景の空間表現が広大になりました。惜しむらくは CD プレイヤーの音に馴染めず、音源がオーソドックスなクラシックでなかったため、細部の確認には及びませんでした。音の変化の方向性は拙宅で聴く印象と同様でした。

2) IO データ機器

ミュージックサーバーの HFAS2 と CD ドライブの HFAD10-UBX のデモが行われていました。この他に LAN DAC は SFORZART、アンプはマークレヴィンソン、スピーカーは B&W の製品が使用されていました。ミュージックサーバーと LAN DAC は Diretta の伝送です。



入室時は、カラヤンの新世界、ついでカーペンターズの 96KHzPCM のファイル音源が再生されており、カーペンターズや逆相らしい音がしていました。

音源を選んでも良いと言われたので fidata アプリを操作して、2L の音源の中からヴィヴァルディのオペラのソプラノのアリアを選択したところ、グレードが上がったように感じましたので、近寄って確認してみたら LAN DAC の表示が MQA の 352.8 の Diretta と出ていました。



音質的には、上記の組み合わせでの Directa 伝送のメリットは大きいといえます。CD ドライブからの再生は聴きませんでしたが、本機の機能の高さには大いに魅力を感じるものの、入手となると価格設定が厳しいところです。

3) 協同電子エンジニアリング

ちょうど、これまでの最高機種 PP-2000 と新製品である PP-5000 の比較試聴に行き合わせました。最新のパッシブアテネーター CM-2200 など、最高の機種を投入した試聴です。同社のデモは、いつも極上のアナログの音を聴かせてくれており、女性ボーカルのアナログ盤では、PP-2000 でも文句のつけようもないレベルですが、PP-5000 にすると全体に深みが増す感じでした。



この他、ヒノエンタープライズ、トップウイング、ソウルノートなどのブースを覗きましたが、割愛します。

以上

註：

下記サイトにも概要報告が掲載されています。

<https://www.phileweb.com/news/audio/202211/05/23840.html>

<https://www.phileweb.com/news/audio/202211/06/23841.html>

<https://www.phileweb.com/news/audio/202211/07/23842.html>